令和元年度発注企業実態調査結果【概要】

【調査概要】

1　**調査目的**‥‥‥‥‥県内発注企業の生産動向，外注利用状況等を把握することにより，
下請振興施策の推進に資する。

2　**調査対象**‥‥‥‥‥県内の発注企業４２４事業所

3　**調査方法**‥‥‥‥‥郵送によるアンケート方式

4　**調査時点**‥‥‥‥‥令和元年７月１日現在

5　**回答状況**‥‥‥‥‥回答企業　１２９社（回収率３０．４％）

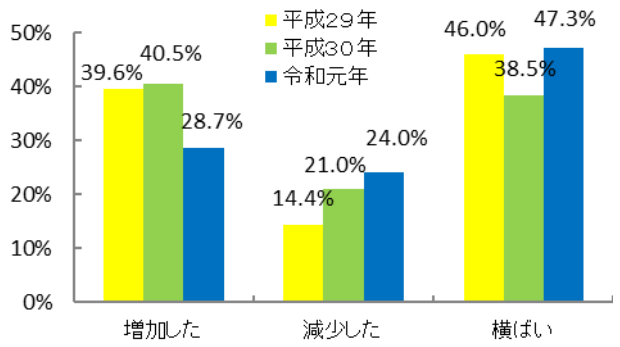
【調査結果の概要】

◆生産の現況・今後の見通し　**～近年の回復傾向が弱まり，今後にも懸念あり～**

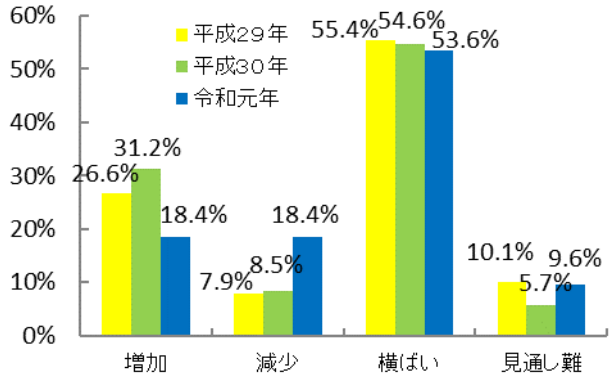
・「生産の現況」については，「横ばい」と回答した企業が47.3%と最も多い。一方で「増加」と回答した企業が昨年に比べて11.8ポイント減少し，28.7%とここ数年の増加傾向の弱まりが窺える。（図1）

・「今後6か月先の生産見通し」については，「横ばい」と回答した企業が53.6%と最も多い。一方で「増加」と回答した企業が12.8ポイントと大きく減少し，「減少」と回答した企業も9.9ポイント増加したことから多くの企業が先行きに懸念を抱えていることが窺える。（図2）

「生産現況」（図1）



「今後６か月先の生産見通し」（図2）

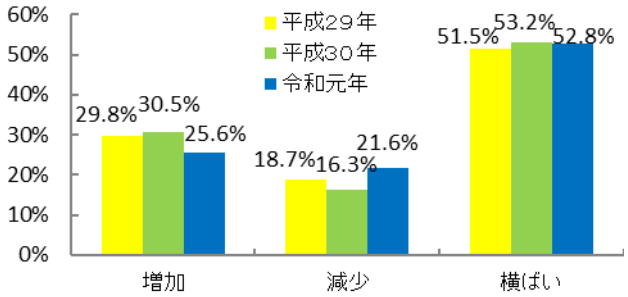


◆外注量の現況・今後の見通し　**～生産量の足踏みに伴い，外注量減少の兆し～**

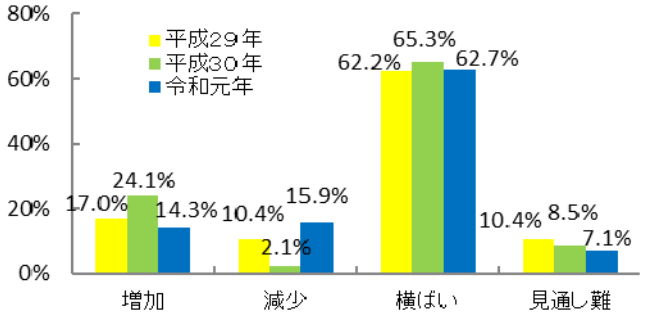
・「外注（発注）量の現況」については，「横ばい」と回答した企業が52.8%と最も多い。一方で「減少」と回答した企業が5.3ポイント増加し，21.6%と減少の兆しが窺える。（図3）

・「今後6ヶ月先の外注（発注）量の見通し」については，「横ばい」と回答した企業が62.7%と最も多い。一方で「減少」と回答した企業が13.8ポイントと大きく増加し，15.9%と「増加」を上回った。このことから，先行きについても減少の兆しが窺え，受注企業にとって厳しい環境が続くことが予想される。（図4）

「外注(発注)量の現況」（図3）



「今後6ヶ月先の外注(発注)量の見通し」（図4）



◆　米中貿易摩擦の影響　**～先行きを含めて影響を懸念する企業が多数～**

・「自社における米中貿易摩擦の影響」については，「現在影響が出ている」と回答した企業が17.2%，「先行きに懸念がある」と回答した企業が46.1%となっており，先行きの懸念も含めて影響が大きいことが窺える。